

新定  
中等習字帖

下

K22072  
49a  
3

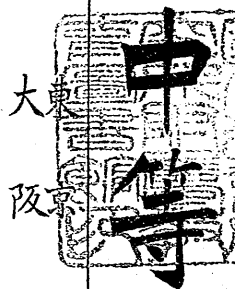
K220.72

49a

3

愛石三太郎書

新定



習字帖

下

開文館發行

緒言

一本書ハ中學校及ゼコレト同程度ノ諸學校教科用書ニ充ツル目的ヲ以テ編纂セシモノナリ  
一本書ノ材料ハ現今中學校ニ行ハル、國語讀本及ゼ漢文讀本ト連絡ヲ保テ普通ノ文字ニ習熟セシメ、且ツ雅言・格言・詩歌等ヲ採輯シ、練習ノ傍、諷誦シテ興味ヲ感ゼシメ、學生ヲシテ倦怠ノ念ナカラシメンコトヲ勉メタリ  
一本書ハ中學校教授要目ニ從ヒ、上卷ハ楷書・行書トシ、中・下二卷ハ行書

ヲ主トテシ楷書・草書ヲ交ヘ上・中二卷ニハ大字・細字及ヒ假名ヲ納メ、下卷ニハ細字及ヒ假名ヲ納メタリ  
一本書ハ毎回課スルニ左右二頁ヲ以テシ、隔週毎ニ淨書セシムルモノトス

編者識

大禹聖人乃惜寸陰至  
於衆人當惜分陰豈可

佚遊荒廢生無益於時  
死無聞於後是自棄也。

戊辰三月官軍先鋒至品川十五日  
を期して侵撃の令あるを同十四

日書成先鋒参謀に送り一見成  
希ふ余高輪薩摩の邸に到る。

おなじ自然のおん母の御手に育ちし姉と妹  
みそらの花を星やつゝみわが世の星を花とつふ  
かれとまゝとんたぐれどにほひはおなじ星と花

をみや光をよひくにかはすもやそし花と星  
まゝとばあけぼの雲白く御空の花のしほむ時  
見よ白露のひとしづくわが母の星に涙あり。

朝辭白帝彩雲間  
千里江陵一日還

兩岸猿聲啼不住  
輕舟已過萬重山。

みづかぎはまゆをきき出でざらん  
人のあはれをかくぞ阿るまき。

とわぐもほろくさるるにぞしほ花のつと  
あはれよのまゝにぞあはれおほく。



半夏生。女竹。大榎。泰山木。  
白木蓮。山百合。嫁菜。撫子。

萬年草。百日草。千鳥草。桔  
梗。金蓮花。亞米利加白薊。

薛文清先生曰讀史最有益古人  
多有明見於事幾之先者如事之

成敗人之賢否皆預言於前而  
具應於後此等殊聞人是識。

今日ナシ得ベキ事ヲ明日マデ延スコトナカレ。  
汝自ラ爲シ得ベキ事ヲ人ニ爲サシムル事勿レ。

怒リタル時ニハ言語ヲ發スル前二十ノ數ヲ數  
ヘヨモシ甚シク怒リタル時ハ百ノ數ヲ數ヘヨ。

夫達人は大観す板山蓋世の勇あるも榮枯は  
夢か幻か大陽山の狩くらに真如の月の影清く  
多念多想を觀ずらん何を怒るかいかり猪の

俄に激する數千騎勇みにいそむはやりをの  
騎虎の勢一徹に止り難きを是非もなき唯  
身ひとつをお捨て若殿ぼらに報いたん。

そとひあまの淵やはちやぐら川のあまの淵よ  
こそあたは波もあて。まつひよ海やあまの淵

山川も替し木の葉も下ぐさなり。雨雲もあ  
みぞもあてたつねとあつまばねをじな川流る。

かきこひの先づ字難成一寸先臨ふの程  
未だ此頃春字後時方悟葉の秋也。

体は他心多事苦回絶る友自お親  
紫鹿曉吐るお女言君汲川流我指新。

先便セイロンよりの拙書よらめて港落のふとと  
存じ候る来船足並みゆくアデンを過ぎスエスを  
るぎそ昨夜ポートサイドにあきつたし候へは

海浜のふとと埃及の東端にある一小市にて  
地中海の入口にいはば今また歐羅巴亞細亞  
亞非利加三洲の境界のまた立てるに候。

遠上寒山石徑斜  
白雲生處有人家

下  
七

停車坐愛楓林晚  
霜葉紅於二月花。



紫雲英。蒲公英。土筆。柳。櫻。  
燕子花。花菖蒲。溪蓀。朝顏。

梧桐。楓。芭蕉。秋海棠。白菊。  
樅。杉。松柏。檜。南天燭。臘梅。

忠臣は國あることを知りて家あることを知らず。孝子は親あることを知りて己あることを知らず。樵夫は山にとり、漁夫は海に浮ぶ。

人各その業をたのしむべし。他山の石は玉を磨くべし。憂患の事は心を磨くべし。水を飲んで楽しむものあり。錦を衣て憂ふるものあり。

相の葉もけけ影見はて秋とほのたぐく夕やるも  
くち待ち居待ちまちとりて歳暮の月を眺めけん。

木の葉ゆりしく山の端の時音よりよりよめふ涙え  
雪たてりおふ月のげなをまほまどと思ふべた。

筑海颶風連天黑蔽海而來者何賊蒙古來  
自北東西次第期吞食嚇得趙家老寡婦持此  
素擬男兒國相摸太郎膽如甕防海將士人名

力蒙古來吾不怖吾怖關東今女山直前斫  
賊不許顧倒吾檣登虜艦擒虜將吾軍喊  
可恨東風一驅附大濤不使羶血盡膏日本刀。

南米諸島に本邦中米南米に新日本を建つべき卑劣な偏激論に  
伴ひ亞非利が我邦人が暗黒世界なぐ申居り候由已た世界  
勢力の争地とお成申は自今跡は南米中米のみ我邦に  
南米中米に別日本を建てんか古ま海を我洲混たしむる業また

はして半人政治家の眼光一掃を要する時存じ申は方今此野の  
秩序整齊なる為の士その奇才を伸べん地なくあけ擣虎居此の技を  
懐き窮者たるをさする者少からずかる人此の地に向けてその  
志を感しむる人此野のよたおすも此野のよと存じ申は。

勿謂今日不學也  
日勿謂今日不學也

未嘗日月遊息  
延修所老矣是  
我

根芥うふ。其の中は言見ぬ関り  
梅うぬ。菊のうぬや赤良んを古ま  
佛だら。時を鳴くやおまきの十文う。

何ゆぞ花をんる人の長刀。蒲志考  
寝つる姿やあふ。我がこぞとおんば  
種し傘おと。こが事と泥鰌の逃げし

今日思之。明日言之。勤勉之手。能作富。  
有智無義。卽狡黠耳。平安度世者。福也。

言不足行。有餘爲貴。驕傲之人。無真友。  
至羅馬。則行羅馬之俗。有德則令名來。



12237

# 玉木愛石書



下世二

明治四十四年十月廿六日印刷  
明治四十四年十月廿九日發行

定價各金拾九錢

編者 橋本文壽  
書者 玉木水三郎

發行兼  
印刷者

發行兼  
印刷者  
森本謙藏  
森本專助

東京市神田區表猿樂町廿三番地  
大阪市東區南久寶寺町四丁目十九番地

東京市神田區表猿樂町廿三番地  
大阪市東區南久寶寺町四丁目十九番地  
開文館

